

- ローカル5Gは、地域や産業の個別のニーズに応じて**地域の企業や自治体等の様々な主体が、自らの建物内や敷地内でスポット的に柔軟に構築**できる5Gシステム。

<他のシステムと比較した特徴>

- 携帯事業者の5Gサービスと異なり、
 - 携帯事業者によるエリア展開が遅れる地域において5Gシステムを**先行して構築可能**。
 - 使用用途に応じて**必要となる性能を柔軟に設定**することが可能。
 - **他の場所の通信障害や災害などの影響を受けにくい**。
- Wi-Fiと比較して、**無線局免許に基づく安定的な利用が可能**。

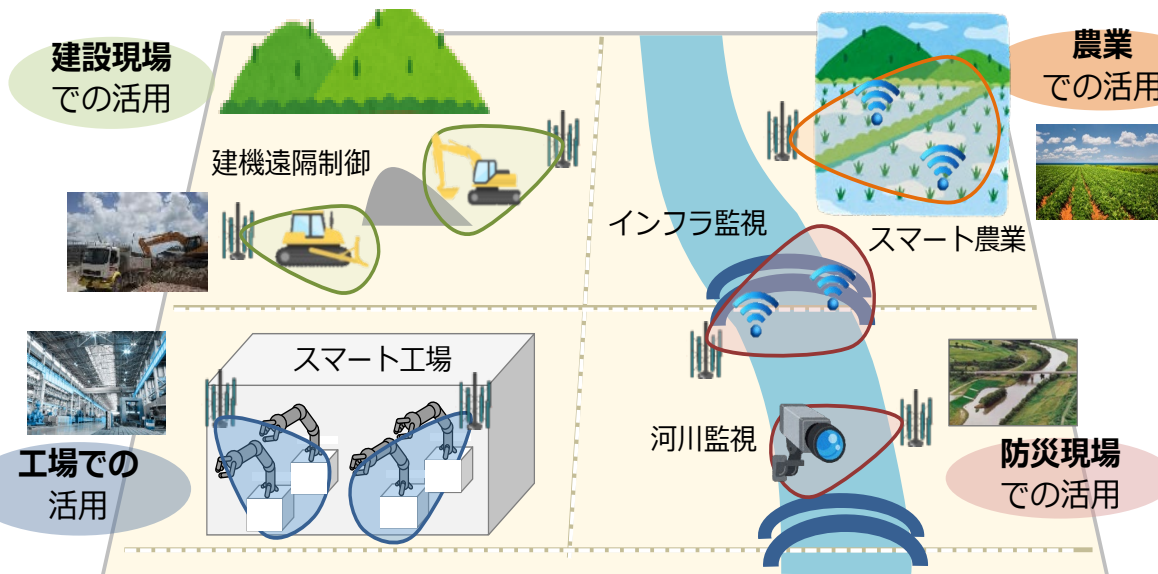
ゼネコンが建設現場で導入 建機遠隔制御



事業主が工場へ導入 スマートファクトリ



建物内や敷地内で自営の5Gネットワークとして活用



農家が農業を高度化する 自動農場管理



自治体等が導入 河川等の監視



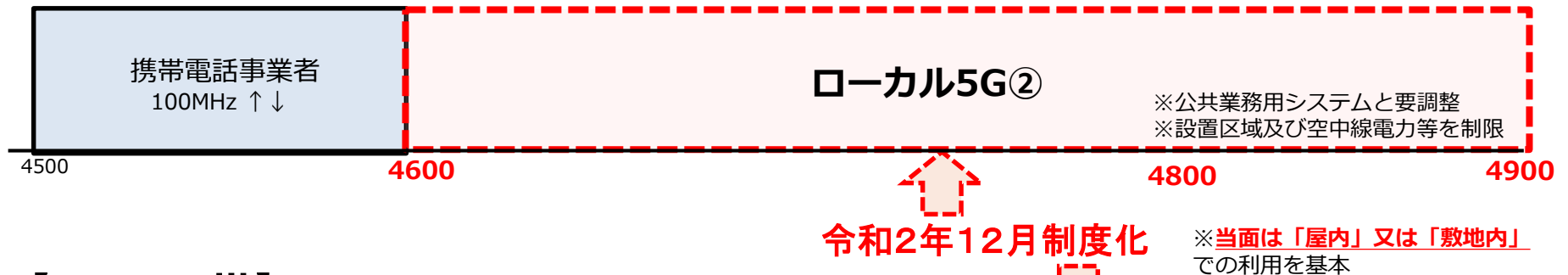
センサー、4K/8K

- 28.2-28.3GHzの100MHz幅については、令和元年12月24日に制度化。
- 4.6-4.9GHz及び28.3-29.1GHzの周波数帯は、令和2年7月に情報通信審議会において技術的条件が取りまとめられ、同年12月18日に制度化。

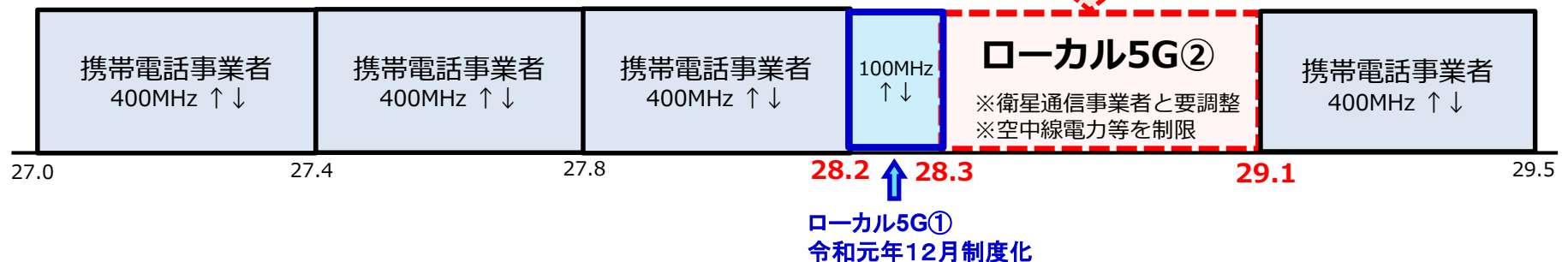
※4.6GHzから4.9GHzの電波は、28GHz帯（28.2GHzから29.1GHz）と比べ直進性が低く、容易なエリア構成が選択できるなどの性質を持っています。

※28.2GHzから29.1GHzの電波は、より超高速・大容量が可能などの性質を持っています。

【4.7 GHz帯】



【28GHz帯】



ローカル5Gのネットワーク構成について

【別紙3】

- 5Gは、導入当初の技術仕様上、5Gの無線局に加えて、制御のための信号をやりとりするために、4Gの基地局、コアネットワークを確保する必要がありました。【NSA※1構成】
- 令和2年7月に国際標準規格が策定され、**5Gの基地局、コアネットワークのみで動作するネットワーク構成が可能**となりました。【SA※2構成】

※1 NSA : Non Stand Alone

※2 SA : Stand Alone

※SA構成は、NSA構成よりも設備構成がシンプルなため、比較的容易かつ安価なシステム構成が可能になります。

本日免許した、リコーインダストリー株式会社の基地局は「SA構成」のものとなります。

